

茨木市立郡小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと | 課題が残る結果であった |
| ⑤読むこと | やや課題が残る結果であった |

（問題形式）

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

- ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことのできる問題で、正答率が最も高かった。
- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題で、正答率が最も低かった。

分析

- ・「書くこと」の領域では全国平均よりも下回っていた。また「読むこと」の領域が全国平均よりも大きく下回っている。
- ・評価の観点では「思考・判断・表現」が全国平均よりも下回っている。
- ・問題形式では、全体的に全国平均より下回っていたが、特に記述式では、大きく下回っている。
- ・問題文で問われている内容の理解ができていなかったり、図やグラフなどを用い、文章で読み取ったことに基づいて、3つの条件を満たして自分の考えをまとめて書くというような問題は課題がみられた。
- ・無解答率は後半にかけて増えているという状況ではないので、最後まで問題に取り組む姿勢が見られる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|---------------|
| ①数と計算 | やや課題が残る結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる問題で、正答率が最も高かった。
- ・正三角形の意味や性質について理解しているかどうかみる問題及び高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題で、正答率が最も低かった。

分析

- ・「数と計算」の領域が全国平均よりも下回っていた。
- ・文章を読んで正しい答えを選択する力や計算式がどのような意味を持っているのか理解することに課題があり、文章問題に取り組む必要がある。
- ・四則混合計算に課題があり、計算問題に反復して取り組む必要がある。
- ・割合の意味を問われる問題には一定理解が定着している。
- ・示された表から必要な数を読みとる力は定着している。
- ・基本的なかけ算の文章題は一定の定着していることから、日々の100マス計算などの取り組みが有効であると考ええる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は全国の水準に比べると下回っているものの、前年度と比べると上昇している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語では学力低位層が減っており、学力高位層が増えている、学力低位層の数値は依然として全国平均を上回っている。

算数は学力低位層が増え、学力高位層の数値が減っているが、エンパワー層は減っている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

「主体的に学び、生きる力を育む」をテーマに、文章を読んで、想いや考えを伝え合うことを通して、想いをつなげる授業づくりについて取り組んでいる。自分の考えを形成するだけではなく、根拠をもって伝えるためのだてや、より考えを深めるための交流の仕方などの研究を行い、日々の授業実践に生かす。

・教師が読み聞かせをしたり、子どもたちが読んだ本でおすすめのものを紹介したりする文章を書いて共有するなど、本に触れる機会を増やす。

・役割読みや一斉音読などいろいろな方法で音読に取り組み、様々な言葉に触れ、正しく文章を読めるようにする。

・帰りの会でスピーチをとおして、いつ・どこで・だれが・どうした、などを意識して伝えたり、話形を意識して、ペアグループで話し合い活動をしたりと、自分の考えを言語化する機会を増やす。

・日常的に百マス計算を行うなど計算力を向上させる取組みを行う。

・日常的に文章問題を繰り返し行うなど読む力を向上させる取組みを行う。

・各教科、各単元でふりかえりを実施し、自身の学びの過程や変容を自覚できる場面を充実させる。

・個別の配慮、支援を要する児童に効果的な支援方法に関する研修会を行う。

・学期ごとに「家でのごし方ふりかえり週間」を実施し、時間を意識し、家庭学習の計画を立てる等、保護者と連携し、生活習慣をふり返る機会を設ける。

・学習計画表を活用し、各授業において児童が見通しをもち「何を学ぶのか」を明確にした授業を行う。